

第47回 全国トラックドライバー・コンテスト

学科競技

問題用紙

(制限時間：60分間)

部門 4トン・11トン・トレーラ・女性

氏名

注意事項

- ① 解答はすべて別紙の解答用紙（マークシート方式）に記入すること。
- ② 解答用紙（マークシート方式）は、鉛筆を使用して必要な箇所にマークすること。なお、誤ってマークした場合は、跡の残らないように消しゴムで消すこと。
- ③ 解答用紙に書かれている受験番号、氏名を確認すること。
受験番号は「『部門コード』 - 『ゼッケン番号（2桁（例：青森県＝02））』」となる。

部 門	部門コード
4トン部門	B
11トン部門	C
トレーラ部門	T
女性部門	W

例）トレーラ部門の青森県代表の選手の場合、受験番号は「T - 02」となる。

- ④ この問題用紙は、試験開始の合図があるまで開かないこと。
- ⑤ 問題用紙を一通り見て、印刷の不鮮明なところがあれば挙手をして係員に申し出ること。
- ⑥ 問題用紙に、メモ、計算等を書き込んでも差し支えない。問題用紙は選手がそのまま持ち帰ること。
- ⑦ 試験開始45分経過後より退室してよいが、解答用紙は机上に伏せて、他の選手の妨げにならないよう静かに退室すること。一度退室したら再度入室は認めない。
- ⑧ 時間については、試験終了10分前と5分前に終了を予告をする。
- ⑨ 落とした筆記用具の拾得等、試験時間中に何らかの問題が生じた場合は、挙手をして係員に申し出ること。

I 法規 (40 問)

【4 肢択一式問題】

問 1. 次のア～エの () 内に数字の5が入るものはいくつあるか。解答用紙の該当する欄にマークを付けなさい。

- ア 貨物の積卸しのための停止で () 分を超えない時間内のものは駐車とはならない。
- イ 駐車した場合に、車両の右側の道路上に () メートル以上の余地がないこととなる場所においては、駐車してはならない。
- ウ 交差点の側端から () メートル以内の場所は駐停車禁止である。
- エ 車庫等の自動車用の出入口から () メートル以内の場所は駐車禁止である。

- 1. 一つ
- 2. 二つ
- 3. 三つ
- 4. 四つ

問 2. 信号に関するア～エの記述のうち、正しいものはいくつあるか。解答用紙の該当する欄にマークを付けなさい。

- ア 黄色の灯火の点滅の場合、歩行者及び車両等は、他の交通に注意して進行することができる。
- イ 黄色の灯火の場合、車両等は停止位置に近づいていて安全に停止できない場合を除いて、停止位置から先へ進んではならない。
- ウ 赤色の灯火の点滅の場合、歩行者及び車両等は、停止位置において一時停止しなければならない。
- エ 赤色の灯火の場合、交差点において既に左折している車両等は、そのまま進行することができる。

- 1. 一つ
- 2. 二つ
- 3. 三つ
- 4. 四つ

問 3. 運転者の遵守事項に関する次の記述のうち、誤っているものを1つ選び、解答用紙の該当する欄にマークを付けなさい。

1. 正当な理由がないのに、著しく他人に迷惑を及ぼすこととなる騒音を生じさせるような方法で、急発進や急加速、空ぶかしをしてはならない。
2. ぬかるみ又は水たまりを通行するときは、泥よけ器を付け、又は徐行する等して、泥土や汚水等を飛散させて他人に迷惑を及ぼすことがないようにする。
3. 高齢の歩行者でその通行に支障のあるものが通行しているときは、安全な間隔をあけて、その通行を妨げないようにする。
4. 道路の左側部分に設けられた安全地帯の側方を通過する場合において、安全地帯に歩行者がいるときは徐行する。

問 4. 踏切に関する次の記述のうち、誤っているものを1つ選び、解答用紙の該当する欄にマークを付けなさい。

1. 踏切の信号機が青信号の場合、安全確認を行う必要はあるが、一時停止する必要はない。
2. 踏切内で故障したので、踏切支障報知装置を使い故障車が停止していることを知らせた上で、故障車を踏切外へ移動するための措置を講じた。
3. 見とおしの良い場所にある踏切で列車が接近していないことが明らかだったが、一時停止をしてから踏切内に進入した。
4. 踏切の手前で警報機が鳴っていたが、遮断機が下りる前に通過できるので、踏切内に進入した。

【○×正誤式問題】

次の問5から問40までの設問について、正しいと思うものについては解答用紙の○の欄に、誤っていると思うものについては解答用紙の×の欄に、マークを付けなさい。

- 問 5. 追越しをする場合に限り、制限速度を超えても違反行為とはならない。
- 問 6. 車両通行帯が黄色の線で区画されている場合は、緊急自動車に進路を譲るなどやむを得ない場合を除いて、黄色の線をこえて進路変更することはできない。
- 問 7. 道路交通法では、貨物が分割できないために積載重量等の制限を超える場合、出発地警察署長の許可を受けたときは、制限を超える貨物を積載して運行することができる。
- 問 8. 故障車の車輪を上げないでロープ等でけん引する場合、けん引する車と故障車の間を5メートル以内に保たなければならない。
- 問 9. 右折するときは、あらかじめその前からできる限り道路の中央に寄り、かつ、交差点の中心の直近の内側を速やかに進行しなければならない。
- 問 10. 標識等で速度が指定されていない自動車専用道路で、けん引するための構造及び装置を有する自動車でけん引されるための構造及び装置を有する車両をけん引する場合の最高速度は時速80キロである。
- 問 11. 横断しようとしている歩行者や自転車がいるかいないか明らかでない横断歩道に接近するときは、警笛等で注意を促しながら進行する。
- 問 12. 初心運転者標識や高齢運転者標識等の表示自動車に対して、危険防止のためやむを得ない場合を除き、幅寄せをしたり、表示自動車が安全な車間距離を保てないような割り込みをしてはならない。
- 問 13. 道路に面した施設等に入出するために路側帯を横断する場合は、徐行して進行しなければならない。

問 14. 夜間の高速自動車国道等で故障により駐停車するときは、停止表示器材を置けば、非常点滅灯火などはつけなくてもよい。

問 15. この標識のあるところは、地上からの高さが3.3メートルを超える車は通行できない。



問 16. 右左折しようとする場合は、右左折しようとする地点から20メートル手前の地点に達したときに合図を出さなくてはならない。

問 17. 交差点とその付近以外の場所で緊急自動車が接近してきたときは、ただちに道路の左側に寄って一時停止しなければならない。

問 18. 路線バスの専用通行帯では、自転車などの軽車両以外の車両は通行できない。

問 19. 道路交通法でいう「交通事故」とは、車両等の交通による人の死傷をいい、物の損壊など物損事故は含まれない。

問 20. この道路標示は、前方の状況により、この標示の中で停止し動きがとれなくなるおそれがある場合には、この中に入ってはならないことを示している。



問 21. 進路変更等をするために合図を出したときは、それらの行為が終わるまで、合図を継続しなければならない。

問 22. 自動車（自動二輪車、小型特殊自動車を除く）に積載できる積載物の幅は、車体の幅の10分の1の長さまで車体の左右にはみ出して積載することができる。

問 23. 貨物自動車が、車両通行帯の設けられていない道路（一方通行路は除く）を通行中、最高速度が高い車両に追いつかれたが、道路の中央との間にその追いついた車両が通行するのに十分な余地が無いときは、できる限り道路の左側端に寄って進路を譲らなければならない。

問 24. 踏切の向こう側が混雑しているなどにより、踏切内で動きがとれなくなるおそれがあるときは、前方の状況を確認しながら徐行して踏切に進入する。

問 25. この標識のある道路は、最大積載量が3トン以上の貨物自動車の通行が禁止されている。



問 26. 「追越し」とは、車両が他の車両等に追い付いた場合において、その進路を変えてその追い付いた車両等の側方を通過し、かつ、当該車両等の前方に出ることをいう。

問 27. 自動車は路側帯に明らかに歩行者がいない場合には、路側帯に入って通行することができる。

問 28. 高速自動車国道等の本線車道では、転回や横断はできないが、後退することはできる。

問 29. 優先道路を通行している場合でも、交差点とその手前の側端から30メートル以内の場所は追越し禁止である。

問 30. 一時停止の道路標識や道路標示のある交差点では、停止線の直前（停止線のない場合は交差点の直前）で一時停止するとともに、交差道路を通行する車両等の進行妨害をしてはならない。

- 問 31. バス停でバスが進路変更の合図をしたときは、後方の車は急ブレーキや急ハンドルで回避しなければならない場合を除いて、バスの進路変更を妨げてはならない。
- 問 32. 交通整理の行なわれていない交差点に入ろうとする場合、交差する道路の幅員が明らかに広い場合には、徐行しなければならない。
- 問 33. 道路の左側部分に三つ以上の車両通行帯が設けられているときは、最も速度の速い自動車が最も右側の車両通行帯を通行することができる。
- 問 34. 道路交通法でいう徐行とは、おおむね10キロメートル以下の速度をいう。
- 問 35. 自動車を離れるときは、エンジンを切るなど車が動き出さないような措置を講じるとともに、他人に無断で運転されることがないようにするために必要な措置も講じておく。
- 問 36. 車両通行帯のある道路で追越しをするときは、通行している車両通行帯の直近の右側の車両通行帯を通行しなければならない。
- 問 37. 自転車を追い越そうとしている前車を追い越すと「二重追越し」となり、違反行為となる。
- 問 38. 高速自動車国道等で自動車を運転しようとするときは、あらかじめ、燃料、冷却水若しくは原動機のオイルの量又は貨物の積載の状態を点検しなければならない。
- 問 39. 前車が右左折のために進路変更の合図を出したときは、急ブレーキや急ハンドルで回避しなければならないような場合を除いて、前車の進路の変更を妨げてはならない。
- 問 40. 危険ドラッグ等の薬物の影響により正常な運転ができない場合は、運転してはならない。

Ⅱ 構造機能 (20 問)

【4 肢択一式問題】

問 41. 事業用貨物自動車の日常点検について、次の点検内容のうち、毎回点検することが義務づけられているものはいくつあるか。解答用紙の該当する欄にマークを付けなさい。

- ア ブレーキ・ペダルの踏みしろが適当で、ブレーキの効きが十分であること。
- イ タイヤに異状な摩耗がないこと。
- ウ エンジン・オイルの量が適当であること。
- エ エア・タンクに凝水がないこと。

- 1. 一つ
- 2. 二つ
- 3. 三つ
- 4. 四つ

問 42. 大型後部反射器に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選び、解答用紙の該当する欄にマークを付けなさい。

- 1. 貨物の運送の用に供する普通自動車であって車両総重量が7トン以上のものの後面には、後部反射器に代えて大型後部反射器を備えなければならない。
- 2. 大型後部反射器は、夜間にその後方150メートルの距離から走行用前照灯で照射した場合にその反射光を照射位置から確認できるものであること。
- 3. 大型後部反射器は、昼間においてその後方100メートルの位置からその赤色部を確認できるものであること。
- 4. 被牽引自動車以外の自動車に備える大型後部反射器は、黄色の反射部及び黒色の反射部又は蛍光部からなる縞模様であること。

問 43. 非常信号用具に関する次の記述のうち正しいものはいくつあるか。解答用紙の該当する欄にマークを付けなさい。

- ア 振動、衝撃等により、損傷を生じ、又は作動するものでないこと。
- イ 夜間100メートルの距離から確認できる赤色の灯光を発するものであること。
- ウ 使用に便利な場所に備えられたものであること。
- エ 自発光式のものであること。

- 1. 一つ
- 2. 二つ
- 3. 三つ
- 4. 四つ

問 44. 事業用貨物自動車の点検整備に関する次の記述のうち、正しいものを1つ選び、解答用紙の該当する欄にマークを付けなさい。

- 1. 最大積載量3トン以上の事業用貨物自動車の日常点検は、一日一回、その運行の開始前に行わなければならないが、最大積載量3トン未満の場合は、走行距離や運行時の状態等から判断した適切な時期に行うことで足りる。
- 2. 定期点検整備は、3か月ごとに行わなければならない。
- 3. 定期点検整備には3か月ごとと12か月ごとの2種類があるが、3か月ごとのほうが12か月ごとよりも点検項目が多い。
- 4. 点検整備記録簿は当該貨物自動車を保管する営業所に据え置いて、点検整備をしたときは遅滞なく必要事項を記載しなければならない。

【○×正誤式問題】

次の問45から問60までの設問について、正しいと思うものについては解答用紙の○の欄に、誤っていると思うものについては解答用紙の×の欄に、マークを付けなさい。

- 問45. 運行記録計は、24時間以上の継続した時間内における事故発生時の瞬間速度及びすべての2時刻間における走行距離を自動的に記録できる構造でなければならない。
- 問46. 自動車の最小回転半径は、最外側のわだちについて12メートル以下でなければならない。
- 問47. 自動車（被牽引自動車を除く）の前面ガラス及び側面ガラスは、運転者が交通状況を確認するために必要な視野の範囲に係る部分における可視光線の透過率が70%以上のものでなければならない。
- 問48. 貨物の運送の用に供する普通自動車で、車両総重量が5トン以上又は最大積載量が3トン以上のものには、速度抑制装置を備えなければならない。
- 問49. 貨物の運送の用に供する普通自動車で、車両総重量が5トン以上のものには、消火器を備え付けなければならない。
- 問50. 尾灯は、夜間にその後方300メートルの距離から点灯を確認できるものであり、かつ、その照射光線は、他の交通を妨げないものでなければならない。
- 問51. エア・クリーナが目詰まりすると、燃費が悪くなり出力が低下するだけでなく、黒煙の量が増加する。
- 問52. 日常点検の結果に基づいて運行の可否を決定するのは、運行管理者である。
- 問53. すれ違い用前照灯は、夜間にその前方100メートルの距離にある交通上の障害物を確認できる性能を有していなければならない。
- 問54. バッテリー液を補充したときは、必ず充電（走行）する。

- 問 55.** 自動車の点検整備を怠ると、排ガス濃度の上昇や黒煙の排出などの環境負荷が大きくなる。
- 問 56.** 道路運送車両法における「道路運送車両」とは、自動車、原動機付自転車、自転車である。
- 問 57.** 自動車の排気管は、排気ガス等により自動車や積載物品が発火したり、制動装置や電気装置等の機能を阻害するおそれのないよう左向き又は右向きに開口していること。
- 問 58.** 道路運送車両法における「車両総重量」とは、車両重量、最大積載量及び55キログラムに乗車定員を乗じて得た重量の総和をいう。
- 問 59.** 自動車の輪荷重とは、自動車の1個の車輪を通じて路面に加わる鉛直荷重をいい、5トンを超えてはならない。
- 問 60.** タイヤの空気圧が不足すると、偏摩耗や損傷を引き起こしタイヤの寿命を縮める原因となる。

Ⅲ 運転常識 (20 問)

【4 肢択一式問題】

問 61. 次のア～エの記述のうち、事業用自動車の運転者が遵守すべき事項として、法令に定めのないものはいくつあるか。解答用紙の該当する欄にマークを付けなさい。

- ア 携行している運行指示書の記載事項に変更が生じた場合には、携行している運行指示書に当該変更の内容を記載すること。
- イ 点呼を受けたときには、点呼の日時や場所、報告事項や確認事項、指示内容その他の必要事項を点呼簿に記録すること。
- ウ 事故を引き起こした場合は、その概要を運転者台帳に記載すること。
- エ 車両総重量が8トン以上又は最大積載量が5トン以上の普通自動車である事業用自動車に乗務した場合にあっては、乗務等の記録に貨物の積載状況を記録すること。

- 1. 一つ
- 2. 二つ
- 3. 三つ
- 4. 四つ

問 62. 車が衝突したときの衝撃力に関する次の記述のうち、正しいものはいくつあるか。解答用紙の該当する欄にマークを付けなさい。

- ア 速度が3倍になれば、衝撃力は6倍になる。
- イ 重量が重いほど衝撃力は大きくなる。
- ウ 衝撃の作用が短時間に行われるほど衝撃力は小さくなる。

- 1. 一つ
- 2. 二つ
- 3. 三つ
- 4. 無し

問 63. 省エネ運転に関する次の記述のうち、誤っているものを1つ選び、解答用紙の該当する欄にマークを付けなさい。

1. 省エネ運転を実行することで、窒素酸化物や二酸化炭素等の排出量が減少するだけでなく、安全運行の確保や経費の節減にも寄与する。
2. アクセルペダルを踏んだり戻したりする波状運転は燃費を悪くするので、アクセルペダルを一定にして走るのがよい。
3. 高速走行では、車速が速いほど燃費が良くなるので、時速80キロより時速100キロで走行するほうが経費節減につながる。
4. 急加速発進をすると燃費が悪くなるので、発進や加速はアクセルを踏み過ぎないようにゆっくりと行うようにする。

問 64. 「自動車運転者の労働時間等の改善のための基準」(改善基準)に定める連続運転時間に関し、次のうち改善基準に違反しているものを1つ選び、解答用紙の該当する欄にマークを付けなさい。

1.

運転時間 3時間	休憩時間 20分	運転時間 1時間	休憩時間 10分	運転再開
-------------	-------------	-------------	-------------	------
2.

運転時間 1時間	休憩時間 10分	運転時間 2時間	休憩時間 10分	運転時間 1時間	休憩時間 10分	運転再開
-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	------
3.

運転時間 4時間	休憩時間 30分	運転再開
-------------	-------------	------
4.

運転時間 2時間	休憩時間 15分	運転時間 1時間	休憩時間 10分	運転時間 1時間	休憩時間 5分	運転再開
-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	------------	------

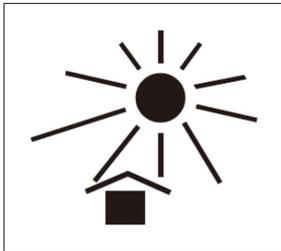
【○×正誤式問題】

次の問65から問80までの設問について、正しいと思うものについては解答用紙の○の欄に、誤っていると思うものについては解答用紙の×の欄に、マークを付けなさい。

- 問 65. 一般的に、回転計のグリーンゾーンとは、エンジン回転計の目盛り部分に示された緑の帯を言い、適正なエンジン回転数の使用範囲を示している。
- 問 66. 休憩時間とは、使用者の拘束を受けない時間をいい、休憩時間や仮眠時間は含まれない。
- 問 67. 夜間は速度感が鈍り、速度が低下しがちになるので、ときどきアクセルを踏むなどして速度の維持に努める。
- 問 68. 踏切内では、変速しないで発進したときの低速ギアのままで進行し、対向車に注意しながら、できるだけ左端を通るようにする。
- 問 69. 事業者は、労働者に対し、毎年医師による健康診断を行うことが義務づけられているが、労働者が健康に自信がある場合は受診しなくてもよい。
- 問 70. 貨物自動車運送事業に従事する運転者の1日についての拘束時間は、13時間を超えないものとし、拘束時間を延長する場合であっても最大拘束時間は16時間とする。
- 問 71. 乗務を終了して他の運転者と交替するときは、交替する運転者に対し、当該乗務に係る事業用自動車、道路及び運行の状況について通告する。
- 問 72. 酒気帯びの有無について確認を行う場合、アルコール検知器を用いた確認ができれば、目視等による確認は省略することができる。
- 問 73. 40キロメートル毎時で走行中の自動車の2秒間の走行距離は、約22メートルである。

問 74. 自動車には、自動車検査証を備え付けなくても、検査標章を表示すれば、その自動車を運行することができる。

問 75. この荷扱い指示マークは、放射線防護を示している。



問 76. 運転時間は、2日（始業時刻から起算して48時間をいう。）を平均し1日当たり9時間、2週間を平均し1週間当たり45時間を超えないものとする。

問 77. 自動車がカーブを走行するときは、自動車の重心に遠心力が働くため、荷物の積み方が悪い場合、重心の位置が高くなったり、片寄ったりするので自動車は倒れやすくなる。

問 78. 自動車から降りるためにドアを開けるときは、まず少し開けて一度止め、安全を確かめてから降りるのがよい。

問 79. 貨物自動車運送事業輸送安全規則の定めでは、疾病、疲労その他の理由により安全な運転をすることができないおそれがある乗務員を乗務させてはならないが、この場合の「その他の理由」とは、覚せい剤等の薬物の服用、異常な感情の高ぶり、睡眠不足等をいう。

問 80. 点呼は対面で行うのが原則で、運行上やむを得ない場合に限り電話その他の方法で行うことができるが、車庫と営業所が離れている場合や早朝・深夜等において点呼執行者が営業所に出勤していない場合などは「運行上やむを得ない場合」に該当しない。

第47回 全国トラックドライバー・コンテスト 学科競技解答

(公社)全日本トラック協会

I. 法規

選択肢				
問	1	2	3	4
1		2		
2			3	
3			3	
4				4

II. 構造機能

選択肢				
問	1	2	3	4
41			3	
42		2		
43			3	
44		2		

III. 運転常識

選択肢				
問	1	2	3	4
61		2		
62	1			
63			3	
64				4

問	○	×
5		×
6	○	
7	○	
8	○	
9		×
10		×
11		×
12	○	
13		×
14		×
15	○	
16		×
17		×
18		×
19		×
20	○	

問	○	×
21	○	
22		×
23	○	
24		×
25	○	
26	○	
27		×
28		×
29		×
30	○	
31	○	
32	○	
33		×
34		×
35	○	
36	○	

問	○	×
37		×
38	○	
39	○	
40	○	

問	○	×
45		×
46	○	
47	○	
48		×
49		×
50	○	
51	○	
52		×
53		×
54	○	
55	○	
56		×
57		×
58	○	
59	○	
60	○	

問	○	×
65	○	
66	○	
67		×
68		×
69		×
70	○	
71	○	
72		×
73	○	
74		×
75		×
76		×
77	○	
78	○	
79	○	
80	○	